東京大学大学院経済学研究科

事 業 名	福島県立福島高校との交流事業			
実施期間	2012年10月27日-28日			
場　　所	福島県立福島高校、他			
参 加 者	外国人留学生	地域住民・企業等	その他	合計
	33　名	43　名	名	76　名

＜実施内容＞

初日は、新幹線とバスを使って、東北地方の文化の中心地、平泉を訪問し、中尊寺と毛越寺とを見学し、平安時代後期に栄えた黄金文化に触れた。翌日、福島県立福島高校を訪問した。未曾有の震災を経験し、原発を地元に抱える福島県立福島高校の生徒さんに、震災後の福島高校の生徒の取り組みを紹介してもらい、被災地の抱える問題について留学生たちと意見交換を行うためである。顔合わせの直後は、留学生も高校生もとても緊張した面持ちであったが、緊張を解きほぐすために、アイスブレークのゲームを2種類、行った。

福島高校によるプレゼンテーション

身振り手振りで誕生日を聞き出し、誕生日の早い順から並んで円を作るというゲームと、好きな色ごとにグループを作ってその色が好きな理由を3つ発表するというゲームであった。これらのゲーム通じて、だいぶ緊張もほぐれてきたところで、本題に入った。まず、福島高校の生徒2名が日英バイリンガルで福島高校の紹介を行った。次に、福島高校の1年生7名が福島復興プロジェクトの一つとして取り組んでいる「土湯温泉プロジェクト」について、パワーポイントを使って同じく日英バイリンガルで紹介した。質疑応答では、留学生側からは「宣伝方法はどうするのか？」「女子旅ということだが、男性にはどうアピールするのか？」という質問が出され、活発な意見交換を行うことができた。この後、留学生2名と高校生3、4人という班を17班作り、班活動の時間とした。班活動では、お弁当を食べながら、日本に来て驚いたことや留学生たちの国の話を聞いたり、高校生たちが自分たちの将来について話したり、とにかくしゃべることに重点を置いた活動を行った。雨の中、散策に出かけた班もあれば、室内でゲームをしながら仲良く過ごす班もあり、若者同士、打ち解けていた。最後、福島駅まで班ごとに移動し、駅で班活動を終了し、東京への帰途についた。

＜参加者からのコメント＞

包　烏蘭さん（中国）/Wulan BAO

福島高校との交流行事に参加させていただき、非常に勉強になりました。現地の高校生たちは去年の東日本大震災・原発事故を経験したにも関わらず、元気で勉強や部活に取り組んでいる姿を見せてくれました。それに、私たち留学生の質問に対しても丁寧に答えてくれて、福島の歴史や現在、福島高校での高校生活の楽しさにも触れていました。特に、高校生たちがゼロから企画した「土湯温泉」のプレゼンテーションには本当に心から感心しました。潜在顧客の分析から温泉の建物の外見設計など隅々まで考慮したことに驚きながら、プレゼン能力の高さにも頭が下がりました。東日本大震災や原発事故を経験したからこそ、明るい未来に向かって一生懸命努力する現地の方々の姿に大変感動しました。自分自身もこれから一緒に頑張らせていただきたいと決心し、非常に有意義な交流行事でした。

姜　河羅さん（韓国）/Hara KANG

去年に比べ福島への注目が薄れてきている中、被災地の復興について改めて考える良い機会でありました。初めに福島高校の学生たちが取り組んでいるプロジェクトについての発表を聞いたときには、彼らの福島への復興の熱い気持ちに感動し、何もしてこなかった自分を恥ずかしく思いました。その後の交流会では、最初はお互いぎこちなかったものの、同じ学生という立場で共感しやすかったため、素直に話ができ、すぐに仲良くなれました。私たちは震災・原発の話から始め、自分の夢についても語り合い、深く理解しあうことができました。5時間という短い時間ではありましたが、現地の学生とのつながりが強まり、復興への関心・意識が高まり、福島の復興に参加したいという気持ちも強くなりました。お別れの時にはすごい寂しく感じましたが、これで終わりにするのではなく、今後また会うことを約束しました。来年は福島高校が企画しているプロジェクトが実行されるのをぜひ見学しに行きたいと思います。